

2025 年度 個人投資家説明会 質疑応答要旨

開催日 : 2026年2月17日(火)20:00~21:00

説明者及び質疑対応者 : 執行役員 経営管理本部長 半羽一裕

説明内容: 長瀬産業(NAGASE)について
成長戦略
株主還元

【質問 1】

為替や物価変動の影響について教えてほしい

円安傾向が続いているが、当社は価格に影響するというよりも、ビジネスの半分以上が海外でのビジネスであり、グループ会社の約半分が海外にある。そのような会社を連結決算する際に、海外の会社の機能通貨が米ドルの場合は、日本円に換算しなければいけないため、その際に為替の影響が発生する。例えば、米ドルが1円変動すると、営業利益の6千万円~7千万円の影響がある。人民元の場合は、営業利益に4億円ほどの影響があると試算している。米ドルが変動すると他の通貨も連動すると考えた場合、米ドルが1円動くと全体で年間1億円ほど営業利益に影響すると試算している。

物価上昇については影響があり、当社は商社業と製造業があり、商社業は仕入単価が高くなるが、その分は販売時にマージンを乗せて販売する。その際にマージンがプラスで乗ってくるためプラス効果がある。製造業は原材料の仕入単価やユーティリティコストの上昇が原価に影響を与えるが、可能な限り、価格に転嫁しながら業績を維持する取り組みを進めており、価格が上がってから転嫁するまでのタイムラグがあるが、業績の変動はなるべく無くす方針。

【質問 2】

株価を高めるためには何が必要だと考えているか

PBR を上げていくためには、ROE と PBR が連動しているという統計もあるため、まず ROE を上げていくことを考えている。2025 年度の ROE の目標は8%であり、資本の効率性をあげていくことも考えられるが、基本は利益を上げていくことが重要になる。そのため、M&A による成長や、製造業の効率化の推進や、商社業により得た情報で新しいビジネスを展開するなどを進めることで、利益の向上を図る。

また、当社のビジネスは複雑であるため、個人の投資家の皆さまや機関投資家の皆さまに対して、IR を通じてより理解していただくことも重要と考えている。国内外の機関投資家との対話は、2023年度は年間100回ほどであったが、2024年度以降は250回ほど実施しており、個人投資家向けの IR は年4回実施している。また、半導体に興味を持たれている投資家が増えているため、半導体に関するスモールミーティングも実施した。

【質問 3】

M&A など今後の成長戦略について教えてください

M&A は常に検討しており、特に注力領域であるフード・半導体・ライフサイエンスの製造機能を強化していく。半導体については、2025年には米国のセイケム社のアジア事業を買収し、半導体製造に使用される現像液の回収・再生事業を進めている。ライフサイエンスでは、旭化成ファーマ社の診断薬・診断薬酵素事業を買収し、現在はナガセダイアグノスティクスとして事業を行っている。フードでは、Prinova が、ブラジルの Aplinova 社を買収するなど、注力領域においては M&A を活用しながら、事業の拡大を図っている。

育成領域については、バイオ、新規事業、新規エリアを視野に入れながら成長させていく戦略を推進していく。

【質問 4】

競合と比較した強みを教えてください

もともと化学系の商社であるため、従業員の半分ほどが理系出身である。最近、事業会社や金融機関にも理系の方が増えているが、当社は昔から理系の社員が多くおり、技術面をサポートした営業ができる点は強みである。

また、商社でありながら、製造機能と研究開発機能を有している点が強みである。製造機能の3～4割が営業利益に影響しており、製造業は利益率が高い点が強みである。

加えて、ビジネスの半分ほどが海外であり、特定の国に偏らず、欧米・アセアン・中国などバランスよく展開していることも強みである。

事業セグメントについても、それぞれのセグメントで利益を得ることが出来ている点も強みである。

【質問 5】

来期以降の株主還元はどのように考えているのか

今年度で中期経営計画が終了するため、現在は次期中期経営計画を検討している。株主還元の重要性は理解しており、2024年度、2025年度は総還元性向100%を掲げ、還元を進めてきた。今後、還元だけでなく、利益成長・投資も重要と認識しており、それらへの配分も勘案して、検討を進めている。次期中期経営計画の発表は2026年5月ごろになる見通し。

【質問 6】

株式分割を実施した狙いをもう少し詳しく教えてほしい

現在の株価は、4,500 円前後で推移しており、1 単位では 45 万円ほどの投資になる。今回 4 分割することで 1 株 1,100 円前後となり、より負担にならない金額で投資できるようにすることで、より多くの方に投資を検討いただけることを期待し株式分割を決定した。

【質問 7】

先日の適時開示で中国に新会社を設立する話を見たが、投資目的などを詳しく聞きたい

2025 年に米国セイケム社のアジア地域における半導体用高純度化学品事業を買収したが、その製造会社は中国にある。先端半導体向けの需要は急速に拡大しており、お客様から生産能力の拡大を要求されていたため、新会社の設立を決定した。

設立する場所については、既存の製造会社が中国にあり、生産のノウハウ・技術を活用するため中国での設立を決定した。中国の地政学リスクは認識しており、投資額の抑制や主要なお客様との連携をより強固にしたり、様々なリスクを想定しながら複数シナリオでのシミュレーションを行い、採算性評価を行い、リスクをコントロールしながら進めていく。

【質問 8】

半導体関連のビジネスにおける御社の強みは何か。

当社の半導体との関りは非常に古く、1960 年代ごろから米国コダック社の半導体材料を取り扱ったことから始まった。現在は、300 社以上の半導体関連メーカーとの取引の実績があり、半導体製造における、あらゆる工程で当社はビジネスを行っており、業界全体を見渡して、動向を把握できることが当社の強みである。

また、ナガセケムテックスは、後工程において使用される液状封止材を製造しており、業界標準の地位を確立している。ナガセケムテックスの技術開発力や製造能力も強みであり、今後の半導体チップの多層化や複雑化に対応するための製品開発力も有しており、封止材においては一步先んじた実績がある点も強みである。

以上